

## 1 はじめに

私に関わったこれまでの音楽の授業内容を改めて振り返ると、圧倒的に「演奏」を中心としたものが多く、「創作（作曲）」の体験が少ない。

自分が小中高と受けてきた授業や、自分が実施した授業も同様で、研修や出張で見学した他校の授業や研究協議会・分科会で取り上げていた内容なども回想してみたが、作曲を中心に扱った授業はゼロではないにしろ圧倒的に少ない。

本校着任3年目を迎え、授業内容がマンネリになりつつあった時に、教科研究員となったことを良い機会ととらえ、これまでやったことのない領域にあえて挑戦したいと考えた。

そこで次のような理由から「創作（作曲）」に取り組むことにした。

①学習指導要領の要点に、「創作と鑑賞の学習の質的充実を図ること」や、「我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実するとともに音楽の多様性の理解を図り～（以下略）」とある。

②県内唯一の連携型中高一貫校として10年を経過した本校は、地元出身の生徒が殆どで、全校生徒のフルネームを覚えてしまえるくらいアットホームな小規模校である。

③前年度に、本校は道徳教育教材活用推進校に指定され、自分は道徳推進教師として、「郷土愛」にスポットをあてた道徳の公開研究授業を企画立案・実施した。

④有志生徒が地元の伝統行事「関宿城さくらまつり」（写真1）に参加したり、吹奏楽部が近隣地域の祭りへの出演や、施設での訪問演奏をするなど、積極的に地元での活動をしているところであり、授業でもなにか、音楽を通じた地域貢献が出来ないかと考えた。

⑤地元商工会青年部が発案作成した「ゆるキャラ」（マスコットキャラクター）の“やど助”（写真2）が平成26年3月に公開され、全国ゆるキャラグランプリにも参戦し活躍している。

平成26年5月に本校の生徒総会にもサプライズゲストとして現れたところ、本校の生徒も大盛況であった。以降、このキャラクターに興味を持った生徒たちは、ツイッターでフォローするなどして応援している。当地域のご当地ソングを調べたところ、演歌やムード歌謡調の曲は、何曲か存在する。ゆるキャラブームに便乗し、“やど助くん”のテーマソングを作ってみようと考え、野田市関宿商工会青年部の許可を取り、生徒と取り組んだ。

以下、本研究とその実践について報告する。

「写真1」関宿城さくらまつり



「写真2」やど助



## 2 計画

1 学年音楽選択者（20名×2クラス2展開）を対象に実施する。

週2時間ある芸術（音楽Ⅰ）の年間指導計画のうち、創作に配分できるのは、2学期（9～12月）相当で、手順は以下のとおりである。

- (1) 事前アンケート
- (2) 事前準備
- (3) 授業実践(学習指導案)
- (4) 指導方法の考察と工夫
- (5) 実践後の意識調査…アンケート型筆記試験から
- (6) 研究のまとめ

この期間内にメイン内容を授業で実践し、おおまかに仕上げで完成させ、以降、細かい部分の修正や音源作り・録音等で作品を形にし、お披露目（プレゼンテーション）したいと考える。

理想としては、出来上がった曲が、商工会青年部のテーマソングとして正式に採用され、必要や要望に応じて、歌入れ（録音）や編曲（吹奏楽伴奏や器楽合奏バージョンやバンドアレンジ等）の域まで発展させたいが、まずは、つくりあげるところまでを、仮のゴールとする。

曲作りの方法というのは、人それぞれで、シンガーソングライターや作詞作曲家にもいろいろなタイプがあり、人の数だけ、そのやり方が存在する。今回は歌詞の創作も行うので、全くのゼロからの作詞作曲スタートとなる。

## 3 研究内容および結果

### (1) 事前アンケート

生徒計39名に事前アンケートを行った。

問1 作詞・作曲（曲づくり）をしたことがありますか？

ある…2名 → A^

ない…37名 → B^

A：どんな曲をどんな方法でつくったのかくわしく教えてください。

作品のジャンルは？詞先？メロ先？楽器を使ったりした？ミュージックソフト等で？

自分で暇つぶし程度に作っていた。  
ダブ ステップ  
Dub step 主にリズム系 ティンクラフ・ダンス系のビートボックス

B：作詞作曲についてどんなイメージや考えを持っていますか？

いつかはやってみたい・できたらいいなあなどと思ったことはありますか？

作ってみたい・やってみたい・出来たら楽しそうだなとは思う…14名  
とても大変そう・すごい・難しそう・とても頭を使うイメージ…13名  
特にイメージは持っていない・思ったことはない…5名  
やり方がわからない・意味不明・その他…5名

問2 「やど助」を知っていますか？どちらか選んで○で囲む

知ってる！→（「

）」でしょ！…24名

知らない・なにそれ？…15名

## (2) 事前準備

音楽の基礎知識がそれなりにあり、楽器の演奏が達者な場合であれば、いわゆる「メロ先」と呼ばれる、詞よりもメロディーやコード進行等の伴奏、つまり音楽から先につくるパターンが可能だが、この方法では本校生徒の現状では難しいであろうと判断した。各自で楽譜や楽器と向き合っていくオーソドックスな方法も検討したが、パソコンやギターは、それらを扱う技術や施設、難易度の面で厳しい。

電子キーボード(コンパクトで持ち運びもしやすく、鍵盤のサイズはピアノと同じ、いわゆるポータートーンやカシオトーンの類い。音色やリズムの種類が豊富で、自動演奏や伴奏機能も付いた簡易電子ピアノ)であれば、スマホをいじると同じ遊び感覚で操作が簡単であることから、主に電子キーボードを使用して作曲することとした。ただし、鍵盤楽器に抵抗がある生徒も少なからずいたため、グループごとに1台という形態をとった。ちなみに本校の殆どのキーボード鍵盤白鍵上には、マジックペンで音名が書いてある。ドレミの位置がわからない、楽譜が読めない、音符が書けない生徒が多いため、それらをフォローする道具として、五線マグネットボードやサイコロ(写真3)、音符カード(写真4)なども準備した。予算が少ないため、既製品の真似をして100円均一用品などで手作りした。

### 「写真3」手作り教材

- 上側・・・歌詞に使う単語やフレーズをホワイトボードマグネットに書く
- 左端・・・音階名を書いたサイコロ(日本音階や五音音階ペンタトニック等)
- 下側・・・左が某音楽教室のもので、右が五線テープを買って貼った手作り



### 「写真4」音符休符カード

厚紙をカットし、裏にマグネットを貼り付ける



「やど助」をテーマにした音楽を作るにあたり、ゆるキャラ設定の経緯や、野田市関宿の歴史や文化などを事前に学習しておかなければならないと考え、教材研究に時間を割いた。「やど助」の誕生秘話については、生みの親である商工会青年部の方々から直接お話を伺った。スローガンやコンセプトの説明なども含め、このゆるキャラに込めた思いや願いなどを熱く語ってくださった。

これを受けて、「やど助」が生まれたという「関宿城のさくらの木」を実際に見に行き、写真撮影をしたり、地域学習のため、関宿城博物館、野田市郷土博物館、野田市役所商工観光課などへ赴き、資料集めをした（写真5・6）。パンフレットや地図は生徒人数分（一人一部）頂いた。

生徒達の自主性を育みながら、小グループでアイデアや意見を出し合って持ち寄り、助け合い補い合ってクラス全体でコンセプトや方向性を決めてゆく方式で進める。

最終目標としては、クラスで1曲、または学年で1曲でも構わないので、曲をまとめて完成させ、プレゼンテーションまでを想定しているが、その方法や内容も生徒達と一緒に考えてゆく。

「写真5」ハンドメイド掲示物

「写真6」参考資料（生徒全員にカラーコピーして配布）



### (3) 授業実践 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

千葉県立〇〇高等学校  
教諭 ○ ○ ○ ○

1 日時・場所 平成26年11月14日(金) 第3限 10:50～11:40・音楽室(3階)

2 学級 1年3組 音楽選択者(男13名, 女7名, 計20名)

本校では1年生120名を3クラスに分けるときに次のようにしている。

1組	2組	3組
美術20名	書道20名	音楽20名
書道20名	音楽20名	美術20名

3 学級観      口数の少ないおとなしい生徒が、元気な生徒に押され気味だが、真面目なメンバーが授業をリードしている。学習への苦手意識を持つ生徒・中学校のときに不登校や欠席がちだった生徒も少なくなく、何事にも消極的で自信が持てない生徒が多い。そのため、丁寧に個別指導することを心がけ、一人一人の学習意欲を引き出し、授業に参加して内容を理解させることで、音楽の楽しさを味わうことが出来るよう、根気強く指導をしている。

4 題材名      みんなで取り組む 初めての創作 ～ご当地ソングをつくる～

5 指導事項   「A表現」(3) 創作

ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージを持って音楽をつくること。

イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。

エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。

6 題材の目標

(1) 楽曲づくりの体験をとおして創作の喜びを体験させる。

(2) ご当地ソング作曲にあたり、曲づくりの過程のなかで、自校周辺の郷土を意識させ、郷土を愛する道徳的心情を育てるとともに、仲間と協力して活動することでコミュニケーション能力の育成をはかる。

7 題材について

(1) 題材観      教科研究にあたり、自分のこれまでの授業実践に加えて、なにか新しい試みをしたいと考えた。地域に根ざした少人数制の連携型中高一貫校で、人権教育や地域学習に力を入れている勤務校の特色を生かし、道徳教育とリンクした授業が展開できないかと思い、本題材を設定した。普段、既成の楽曲に触れることの方が圧倒的に多い生徒たちに、曲づくりを経験させ、作曲する側の意をくみとることは、他者理解につながり、音楽力の向上だけでなく、情操教育的な効果も期待できるのではないかと考えている。

(2) 指導観      中学校「音楽」から高等学校「芸術」へとシフトチェンジし、振り出しに戻って音楽の基本から再確認するつもりで、一学期は歌唱（発声の仕組みと呼吸法～校歌や芸術歌曲独唱）と基礎的な楽典を中心に授業を展開してきた。基礎を固めたつもりだが、実際はなかなか定着が難しい。音楽理論は苦手な生徒に少しでも読譜力をつけさせたいと思い、二学期はハンドベル（ミュージックベル）でグループ活動や合奏をしながら、同時に共に学び合う姿勢や協調性も身につけることを目指してきた。

読譜も記譜も苦手で、楽器の演奏経験もほぼ皆無である生徒には難易度の高い課題である「作曲・創作」だが、指導法や教材の工夫を図ることにより、曲づくりも可能だということを実証すべく、本研究を進めたい。生徒たちは皆で力を合わせて曲をつくりあげる体験をとおして、達成感や充実感、学級や地域への所属意識を味わい、コミュニケーション能力向上になればと願っている。

## 8 指導計画（全10時間扱い）

※事前アンケート① 作詞作曲経験の有無，‘やど助’の周知度

時配	学習内容と活動	評価規準と方法
1	テーマ発表（提案），野田市商工会青年部のコンセプトや企画までの経緯について。 参考曲DVD鑑賞：「チーバ君の歌」「菜の花体操」「利根の恋唄」「関宿しぐれ」。 アンケート②歌詞や曲調の方向性，曲作りの手順，プレゼンまでの全体イメージ。 野田市関宿の地域学習（野田市マップ、パンフレット等を使用したクイズ形式）。	関① 観察 ワークシート
2	作曲とは何か，作曲にあたり知っておきたいこと。アンケート集計結果の考察。 「作曲の方法や手順」・・・詞先メロ先，言葉と旋律，字脚，楽曲の構成など。	関① 観察
3	キーボード講習① 音色，リズムジャンル，自動伴奏機能。コードネームの学習。	関③創③ 観察
4	キーボード講習② <sup>ルート</sup> 根音だけ～幹音で弾ける簡単な伴奏づけ（リトシートによる）。	技① 観察 ワークシート
5	音の高低・長短。主要三和音， <sup>トライアド</sup> コード進行（復習）。歌詞の作成開始。	創① 観察 ワークシート
6 本 時	言葉にメロディーを付けてみよう。小グループ活動開始。	関②創② 観察
7 ～ 10	曲の構成と歌詞作り全体会議～メロディーラインの輪郭完成。伴奏づけ。	技① 観察

※教師による編曲（オーケストレーション等）作譜・録音～完成お披露目～進呈（贈呈）

研究授業時の様子① 「写真7」グループごとに班の形で着席させる



9 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>①題材テーマ，作詞作曲の行程や作業に関心を持ち，創作の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②音階（我が国における様々な音階），旋律（それぞれの音階が醸し出す雰囲気の違いなどを感じ取って音階を選び，その音階を基にした旋律）に関心を持ち，イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③反復，変化，対照などの構成などに関心を持ち，イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，題材テーマに適した，表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し，どのような音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> <p>②音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，音階を選んで旋律をつくり，表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し，どのような音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> <p>③音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，反復，変化，対照などの構成を考え，表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し，どのような音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p>	<p>①創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身につけ，創造的に表している。</p>

研究授業時の様子② 「写真8」板書および掲示物



## 10 本時の指導計画

### (1) 目標

言葉の持つ音楽性を生かして、短い文・文章に、音階を基にした旋律をつくる。

### (2) 展開

段階 (配当時間)	◎学習内容 ・学習活動	学習活動の支援・指導上の留意点 ◆評価規準【評価方法】
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶と号令（ピアノ輪番制）</li> <li>・これまでの内容を振り返る→学習済プリントを出す</li> <li>・本時の目標確認</li> </ul>	<p>当番生徒が弾けるよう支援する。 用具やプリント類等がきちんと揃っているか確認する。</p>
展開 (40分)	<p>◎（復習も兼ねた学習）詩に旋律をつけるにあたり、言葉の持つリズム、言葉のまとまり、抑揚や発音アクセントとメロディーの関係について知る。</p> <p>◎教科書p146「音階」について学び、今回は日本音階を使う方法で旋律をつくる。</p> <p>◎陽陰（長短・ジャマイナ）について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3名のグループを作り、協力しながら活動する。グループで1枚のワークシートに活動記録内容を書き込む。</li> <li>・これまでに学習したテクニックを有効活用し、言葉（共通課題ワード歌詞）にリズムとメロディーを付けてみる。出来あがったフレーズを互いに聞き合い、工夫したところやこだわりポイントなども発表する。</li> </ul>	<p>板書、五線マグネット、キーボードやピアノを実際に使いながら説明し、理解させる。</p> <p>日本の音階のなかから言葉の雰囲気のあるものを選ばせる。</p> <p>◆音楽への関心・意欲・態度② 【観察】</p> <p>机間巡視し、相談しながら協力してグループ活動が円滑に行われるよう支援する。（採譜や言語化等、状況に応じたアドバイスをする。）</p> <p>◆音楽表現の創意工夫②【観察】</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと次回の予告</li> <li>・後片付け</li> <li>・挨拶と号令（ピアノ輪番制）</li> </ul>	<p>次回から本格的構成に入る予定。</p> <p>当番の生徒が弾けるよう支援。</p>

### (3) 本時の評価

評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

【観察】グループ活動する場において、指定された歌詞に、言葉の持つ音楽性を生かして音階を基にした旋律をつくるために、自ら発言をして意見やアイディアを出したり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしているか。

「十分満足できる」状況（A）の例

言葉と音階と旋律の関係について興味をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組んでいる。説明内容を理解した上で、グループ活動にも積極的に取り組む

み、自分の案を明確に相手に伝えたり、相手の意見を聞き、本時の発表に向けて建設的な態度で話し合いを進められる。音階を使用した旋律だけでなく、伴奏や副旋律なども視野に入れた音楽づくりができています。

以上のような場合は「十分満足できる」状況と判断される。

## その他

使用教科書：音楽之友社 「ON!①」

参考文献：

歌詞から作曲できるようになる本(CD付)著・野口義修(Rittor Music)  
作曲上達100の裏ワザ 知ってトクするおもしろアイデア&ヒント集 フノサトル著(〃)  
8小節から始める曲作りの方法50(CD付) 藤原 豊 植田 彰 著(〃)  
青島広志の作曲のススメ(音楽之友社), 作曲のための8の極意(ヤマハ)  
地域の観光案内図・観光ガイドマップ・エリアマガジン・博物館の資料 ほか

### (4) 指導方法の考察と工夫

上記の学習指導案に従って授業実践をしていったのだが、実際には計画通りスムーズに事が進まず、特に時配6以降のまとめの段階において苦戦した。授業者としては、段階を経てステップアップし、最終ゴールへ辿り着かせるつもりで綿密に学習計画を立てたつもりであった。前時の学習内容を殆ど覚えていないため、既習内容に積み上げていくことが困難である。さらに欠席遅刻者が多いこと、気分が乗らず授業どころではない、集中力が持続しない等により、なかなか学習意識が高まらない。

生徒は日頃から、口癖のように「どうせ〜」「絶対無理」「だってみんな〜」「面倒くさい」など否定語や言い訳のオンパレードで、学習への苦手意識が非常に強い。「やる前からチャレンジしようとしなくて諦めないで！」と励ましながら、「まずはとにかくやってみよう」というスタンスで授業を展開した。アクティブラーニングにすると生き生き活動するので、受動的な講義講演やじっくり説明を聞く場面は少なめにし、即活動させる。一斉授業というよりも1対多数の個別指導型である。生徒の言語活動、発表の場、書く場面、考えを深める場面を必ず設定するよう心がけている。

グループ活動には、仲間とのコミュニケーションが必須だが、自分達だけではうまくまとめられないグループも見受けられた。何とかして仕上げなければ達成感も味わえない。しかし自分達で作ったという意識は持たせたい。このような状況のなか考案したのが、通称「音階マトリックス表」だ。(次ページの表1)

方向性は確認しつつ個人的な作業を優先させ、個別に作る。そして各々の作品の良いところ取りをしてつぎはぎし、最後は教員でまとめて仕上げることにした。

ある程度、曲の全体像や輪郭など雰囲気はイメージ出来ているのだが、それを音符におこしたり演奏で伝えたりすることが難しいようだ。したがって、既に決まっているリズムに音階音を当てはめる(○をつける)だけで、あとは書き込んだ表を見れば演奏が出来るような形にした。「やど助」は「侍」だから和風のテイストが良いかもね、という方向性は決まっていたので、陰旋法(都節音階)を使って作成した。

「表1」

1年 組 番 名前

でんとうてき いんせんぼう みやこぶし

日本の伝統的な音階「陰旋法（都節ともいう）」を使って、メロディーをつくってみよう。俗楽（庶民の音楽）によく使われた音階です。

聞いた感じ、すごく日本っぽいですよ。箏（お琴）の音色が似合いそう～

ド							
ラ(上行は# 下行はb)							
ソ							
ファ							○
レb							
ド						○	
ラ(上行は# 下行はb)	○			○			
ソ		○		○			
ファ			○				
レb							
ド							
発音アクセント(イントネーション)	→	↘	↘	↗	→	→	→
歌詞(ことば)	こ	い	を	す	け	だ	ち
メロディー(音階音)	bラ	ソ	ファ	ソ	#ラ	ド	ファ
リズム	♪	♪		♪		♪	

※補足：作曲には例外が付きものなので、#やb、ドレミ音名など、この表の中に無い音を使っても多少は構いません。

ド							
ラ(上行は# 下行はb)							
ソ							○
ファ						○	
レb			○	○		○	
ド		○			○		
ラ(上行は# 下行はb)		○					
ソ	○						
ファ							
レb							
ド							
発音アクセント(イントネーション)	↗	→	→	→	→	↗	→
歌詞(ことば)	せ	き	や	ど	の	さ	む
メロディー(音階音)	ソ	#ラ	ド	bレ	bレ	ド	bレ
リズム	♪		♪		♪	♪	♪

このマトリックス表を用いて、まず発音アクセント（イントネーション）を「雨〇↘〇」・「飴〇↗〇」のように記入させる。リズム欄に決めた音符を写させて、あとは音域に配慮してグラフ部分に〇を付けたら、確認のためメロディー（音階音）のところに階名を書くという手順だ。

簡単な作業とはいえ、それでも戸惑う生徒がいた。実際に本人が記入してきた表から、ピアノで音にして弾き歌ってやると、なるほどねという満足げな表情を見せる。「あ！ココの音のつながりが変じゃない？」「実際、これじゃ歌いにくいね」などと積極的な意見を言うようになり、取り組み姿勢が前向き上向きに変わっていった。図や絵が音になると、わかりやすいのかもしれない。

近年、外国籍の生徒も増え、本校にも数名在籍しているが、音楽は世界の共通語というとおり、特にユニバーサルデザインという観点で用具やプリントなどの教材を見直すことが必要になってきている。ほんのひと工夫を施すだけで学習効果が高まり、わかる・出来る喜びや楽しさ・・・とはいかなくとも、せめて「出来るようになりたい・出来たらいいな・少しわかったような気がする」という気持ちだけでも持ってもらえたら良いと思う。

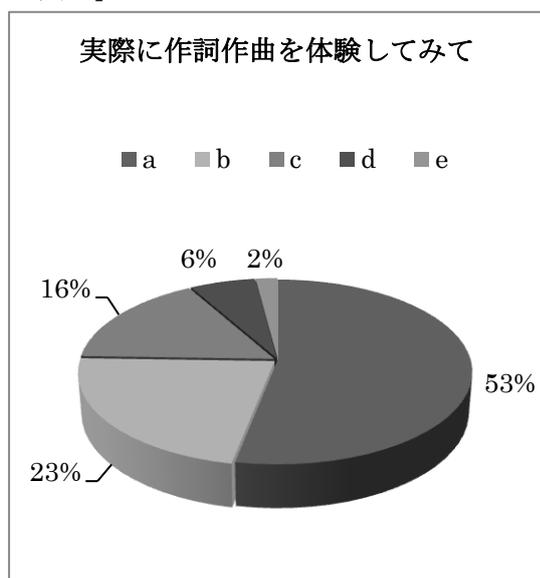
学習の過程としてやはり何事も基礎基本の充実が大切であることは言うまでも無い。しかし、その基礎基本の時点で困難が生じる場合は、学習意欲がますます減退してしまう。何のための下地作りなのか完成図への連動イメージが出来ないと意味をなさないのだから、それならばいっそ思い切って省いてしまえというわけである。全体像を理解した上で、ゴールに辿り着く道筋や手順、結論のための方法は1つではないということだ。

この「即本題（ダイレクトに作曲）に入る作戦」は効果的だと今回の研究で確信した。

私は、これまでの経験とこの研究をふまえて、ここ最近では逆転の発想で授業を組み立てている。つまり、前菜（＝基礎や基本などの難しい・ややこしい・面倒な理屈や理論）をあとに回して、メインディッシュの味見をさせてしまう（＝イキナリおいしいところ取り（の真似事）から導入する）のである。そして実践しながら生徒たち自らに基礎の大切さに「気づかせる」のである。わからないことに遭遇し、必然的に必要になった知識や技術をそこで初めて伝授すれば良いのだ。

#### （5）実践後の意識調査…アンケート型筆記試験から（回答数32枚中）

「図1」



a：大変だった・苦労した・難しかった・ナメていた・思っていたより簡単につくれるものではないことがわかった

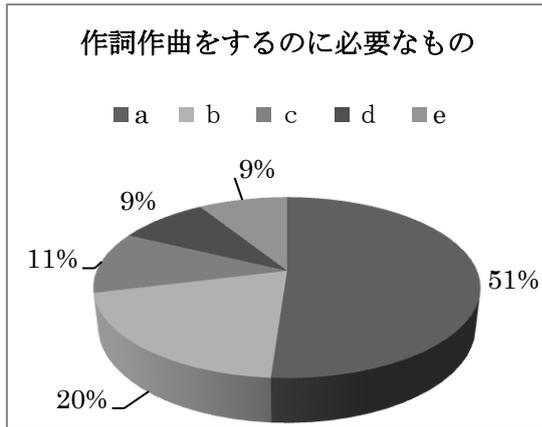
b：作曲者ってスゴイ！何気なく聴いている曲も大変な時間や労力をかけているんだなあ・1つの曲を作る手間暇の実際・音楽って素晴らしい！

c：楽しかった・作れたのがよかった・作曲ってすごく楽しくてやりがいがあった・みんなで出来たのが楽しかった

d：もっといろいろ作ってみたい・またやりたい

e：メロ先の方のやり方もあると教わったけど、自分は歌詞からの方がイメージしやすかった

「図 2」



- a : 音楽に絡んだ力 (音符・リズム・楽譜・テンポ・音程・音感・コード・絶対音感=聞き取る力・色々な音楽を知っていること, 楽器が演奏できる能力)
- b : 発想力・想像力・やる気・考える力・決断力・先生
- c : コミュニケーション能力 (自分の思いや考えを伝える力)
- d : 語彙・言葉とリズムを合わせる力
- e : 才能・センス・自信

#### (6) 研究のまとめ

今の時代、作曲といえばDTM (デスクトップミュージック) が主流だ。スマートフォンにも作曲のアプリがあるし、楽器が演奏出来なくとも、コンピューターが自動で記譜も演奏も伴奏付けも何でもしてくれる。羽根ペンで五線紙に音符を書いていた時代とは確実に違う。実際はそんな最新技術を駆使した、時代や実態に沿った授業もしてみたかったというのが本音だ。ただ、創作というのは無の状態・白紙からの手作業であって、そんな簡単なことじゃないのだぞということも伝えなかった事のひとつである。作曲へのアプローチの仕方は他にも沢山ある。数音から～コード進行や和音から～リズムやオノマトペや図形楽譜から～即興から～・・・等など。今回の研究では、作詞も行ったので、やはり言葉を優先し、アクセントやイントネーションに配慮して音階を利用するという方法に辿り着いた。「誰にでも出来る」という点にこだわった結果、○をつけるだけでメロディーが出来上がる「音階マトリックス表」を考察した。冒頭やサビメロなどには便利でオススメなので、一つのアイデアとして旋律づくりなどにご活用いただけたらと思う。



#### 4 おわりに

紙面上では音を鳴らすことが出来ないで、完成作品の URL→音源 <http://goo.gl/ZTqwmg> 楽譜 <http://goo.gl/aZVW46> QR コードを貼り付けます。歌詞と楽譜はこちらからご覧下さい。

今後の課題として、この曲を活用した地域交流・地域貢献である。子供向けの親しみやすいポップスに仕上がったと思うので、ヴォーカルは「歌のお兄さんお姉さん風の爽やかな歌い方」か、「子どもの声」で歌入れできたらと考えている。最後部分に「やど助～」コールが入り、やど助が登場するという想定で作った。

今回、研究の機会を頂き、勉強不足だった領域の研究が出来てたいへん有意義でした。

最後になりましたが、研究にあたりご指導いただきました、千葉県教育庁教育振興部指導課前指導主事の○○○○○先生、現指導主事の○○○○○先生、教科指導員の県立君津高校：○○○○○先生、教科研究員の○○先生と○○先生に心より感謝申し上げます。